

目 次

1	共通科目	
①	特別研究	2
②	課題研究	3
③	健康情報論	4
④	保健統計論	5
⑤	健康環境論	6
⑥	看護研究論	7
⑦	看護理論	8
⑧	看護倫理	9
⑨	ペアレンティング学	10
⑩	看護英語	11
2	看護教育・看護管理学分野（看護教育・看護管理学領域）	
	分野の特色	12
①	看護教育・管理学特論Ⅰ	13
②	看護教育・管理学特論Ⅱ	14
③	看護教育・管理学演習	15
④	保健医療情報学演習	16
3	成人・老人看護学分野（成人・老人看護学領域）	
	分野の特色	17
①	成人・老人看護学特論Ⅰ	18
②	成人・老人看護学特論Ⅱ	19
③	成人・老人看護学演習	20
4	母子看護学分野（母子看護学領域、実践助産学領域）	
	分野の特色	22
①	母子看護学特論Ⅰ	25
②	母子看護学特論Ⅱ	26
	母子看護学分野（母子看護学課程科目）	
①	母子看護学演習	27
	母子看護学分野・実践助産学課程科目	
①	助産学特論	29
②	ウイメンズヘルス論	30
③	助産診断・技術学基礎	31
④	助産診断・技術学特論Ⅰ	32
⑤	助産診断・技術学特論Ⅱ	33
⑥	助産診断・技術学演習	34
⑦	周産期ハイリスク論	36
⑧	母子精神病理学	37
⑨	周産期医療システム論	38
⑩	コンサルテーション論	39
⑪	地域母子保健診断学	40
⑫	助産管理学	41

特 別 研 究

到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に行う中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

課 題 研 究

到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探求し、教員の指導のもとに論文を作成する。

課題研究（研究計画立案） 2単位

- ・ 課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる
- ・ テーマに関する文献検索し、研究課題を位置づけられる
- ・ 研究テーマに適した研究方法を選択できる
- ・ 配慮すべき倫理的な事項を列挙できる
- ・ 研究計画書を決められた形式で作成できる

課題研究（調査・ゼミナール） 2単位

- ・ 研究計画書にそって具体的の実験・調査を設定できる
- ・ 研究の信頼性・妥当性を確保するための事項を理解している
- ・ 実験・調査のデータ分析が適切に行える
- ・ 研究の問題・課題を他者と議論し深められる
- ・ ゼミナールで他者の意見を参考に研究方法などの改善ができる

課題研究（論文作成・発表） 2単位

- ・ 基本的な論文構成（緒言、研究方法、結果、考察、結語、引用文献）に従って論文を作成できる
- ・ 論理的で一貫性がある論文を作成できる
- ・ 倫理的に配慮した記述ができる
- ・ 発表要旨や抄録を作成できる
- ・ 研究内容をわかりやすく発表できる
- ・ 質問に対して適切な回答をすることができる

授業科目：健康情報論（2単位）

到達目標：健康に関わる情報の特性を理解する。

健康支援に必要な保健・医療の IT 化を理解する。

保健・医療における IT 化の状況を理解する。

健康支援のための保健・医療情報の活用の視点を理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	22.6.13	月	6,	健康に関わる情報の特性	栗原	看護学科棟保健指導室（2階）
2・3	22.6.20	〃	6・7	健康支援に必要な保健・医療の IT 化	〃	
4・5	22.6.27	〃	〃	保健・医療における IT 化の変遷	〃	
6・7	22.7.04	〃	〃	保健・医療データの標準化	〃	
8・9	22.7.11	〃	〃	医療データ（電子カルテ）と健診データ	〃	
10・11	22.7.25	〃	〃	広く活用できる保健・医療データベース	〃	
12・13	22.8.01	〃	〃	健康支援の情報提供のあり方	〃	
14・15	22.9.05	〃	〃	保健・医療における AI 活用の可能性と課題	〃	

参考図書：

1. Kathryn J. Hannah, Marion J. Ball and Margaret J.A. Edwards. Health Informatics: Introduction to Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10 周年記念出版編纂委員会. 医療情報学 1～3 巻. (有) ネットワーク.
3. 中野正孝ほか. 系統看護学講座 基礎 8. 情報科学. 医学書院.
4. 西垣 克監訳. 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

授業科目：保健統計論（2単位）

- 学習目標：1) 看護研究を実際に行って収集されたデータの特性について学習する。
- 2) 母集団から抽出された標本データから母集団の特性を推定するために、平均値等の集団の特性値及びその検定手法、比率の検定手法を理解する。
- 3) 看護研究でしばしば用いられる調査票を用いた手法について、社会調査論の立場から実施手技について理解し、得られたデータの収集・解析・評価の実際を学習する。
- 4) 人間の健康や障害に係わる事象と影響する要因との因果関係を推定するための統計手法（二次クロス・三次クロス・多変量解析）を実際に SPSS、Excel 統計等の統計ソフトを用いて学習する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	23.10.3	月	6・7	SPSS の使い方	吾妻	共同研究室（4階） 地域看護学講座・地域看護学
3・4	10.17	〃	〃	保健統計学①データの取扱い	〃	
5・6	10.24	〃	〃	保健統計学②比率の比較検定	〃	
7・8	10.31	〃	〃	保健統計学③平均値の比較検定	〃	
9・10	11.7	〃	〃	基礎統計学, 2群間の比較	高尾	
11・12	11.14	〃	〃	分散分析と多重比較	〃	
13・14	11.21	〃	〃	独立性の検定	〃	
15・16	11.28	〃	〃	演習とまとめ	吾妻、高尾	

授業科目：健康環境論（2単位）

- 学習目標：1) 人間の健康に影響を与える要因に対する基本的視座を学び、疾病や障害の発生するメカニズムを理解する。
- 2) 健康要因の中でも特に内部環境（ホメオスターシス）の破綻が人間の健康に与える影響を学習する。
- 3) 環境ホルモンの人体への曝露に関する影響を学び、疾病や異常を引き起こす許容限界の考え方を理解する。
- 4) 人間の健康に影響を与える要因のうち、ストレスのマネジメント、リスクコミュニケーションの実際を数名のグループに分かれて検討し、各グループの考えをプレゼンテーションする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	23.12.5	月	6・7	ホメオスターシスと健康	高尾	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室(4階)
3・4	12.12	〃	〃	グループワーク	〃	
5・6	12.19	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
7・8	24.1.16	〃	〃	環境ホルモンと健康	〃	
9・10	1.23	〃	〃	グループワーク	〃	
11・12	1.30	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
13・14	2. 6	〃	〃	ストレスと健康	〃	
15・16	2.13	〃	〃	プレゼンテーションおよびまとめ	〃	

授業科目：看護研究論（2単位）

学習目標：看護における研究の意義や役割を理解すると共に、他の研究論文などのクリティークを通して、各自の研究に必要な研究枠組みや研究方法、研究計画から論文作成までの研究概要について理解ができる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月11日	月	6	看護研究の意義・役割	坂本	基礎看護学（3階） ・精神看護学（6階） いずれかの共同研究室
2	4月11日	〃	7	看護研究の動向と倫理	坂本	
3	4月18日	〃	6	研究課題と文献検討	坂本	
4	4月18日	〃	7	研究デザイン・研究方法概要	坂本	
5	4月25日	〃	6	量的研究法(1)	野村	
6	4月25日	〃	7	量的研究法(2)	野村	
7	5月9日	〃	6	質的研究法(1)	戸田	
8	5月9日	〃	7	質的研究法(2)	戸田	
9	5月16日	〃	6	英文看護論文査読 量的研究法(1)	吾妻	
10	5月16日	〃	7	英文看護論文査読 量的研究法(2)	吾妻	
11	5月23日	〃	6	英文看護論文査読 質的研究法(1)	吾妻	
12	5月23日	〃	7	英文看護論文査読 質的研究法(2)	吾妻	
13	5月30日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(1)	坂本・戸田 野村	
14	5月30日	〃	7	研究計画プレゼンテーション(2)	坂本・戸田 野村	
15	6月6日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(3)	坂本・戸田 野村	

授業科目：看護理論（2単位）

到達目標

1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。
2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用方法について説明できる。
3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。

回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	23.6.16	木	6・7	ガイダンス 私と看護理論との出会い・自己紹介	尾原、高橋	成人看護学（7階）・小児看護学（5階） いずれかの共同研究室
3・4	6.23	〃	6・7	看護理論の発展 ① 看護理論入門：歴史・用語・分析 ② 看護における理論の重要性 ③ 理論開発の過程	尾原	
5・6	6.30	〃	6・7	看護理論 ① 看護理論の分類 ② 看護理論の種類 ③ 看護理論の実践への適応	高橋	
7・8	7.07	〃 〃	6・7	看護理論の理解（1） discussion 看護理論の理解（2） discussion	尾原、高橋	
9・10	7.14	〃 〃	6・7	看護理論の理解（1） presentation、 discussion 看護理論の理解（2） presentation、 discussion	尾原、高橋	
11・12	7.21	〃 〃	6・7	看護実践の理論への適用（1） discussion 看護実践の理論への適用（2） discussion	尾原、高橋	
13・14	7.28	〃 〃	6・7	看護実践の理論への適用（3） presentation、 discussion 看護実践の理論への適用（4） presentation、 discussion	尾原、高橋	
15	8.04	〃	6	看護実践の理論への適用（5） presentation、 discussion	尾原、高橋	

使用教科書

1. Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳：Nursing Theorists And Their Work
看護理論家とその業績第3版、医学書院、2004.

参考書

1. Julia B. George 南裕子他訳：NURSING THEORIES TheBase for Professional Nursing Practice 看護理論集 日本看護協会出版会、2003.

授業科目：看護倫理（2単位）

学習目標：倫理の概念、その文化的背景を概観し、看護者の日常生活と実践活動に関係する各種倫理規定を理解し、実践の場で遭遇する倫理的ジレンマの抽出及びそれらに対応できる知識を修得する。

講義回数	月日 (曜)	時間	テーマ	担当教員	場所
1,2	4/15 (金)	6,7	1.看護倫理の歴史的背景 2.看護者の倫理 3.生き方にみる倫理	片岡	6階 老年 看護 学共 同研 究室
3,4	4/16 (土)	3,4	1.倫理と法 2.倫理の文化的背景 3.医療における倫理	阿部	
5,6	4/22 (金)	6,7	1.生命・尊厳の尊重とアドボカシー 2.日常生活にみる倫理と倫理的感受性	片岡	
7,8	5/13 (金)	6,7	1.課題1：発表 2.医の倫理規定 3.環境と倫理	〃	
9,10	5/20 (金)	6,7	1.公正・平等の保障 2.相互信頼関係 3.医療情報と倫理	〃	
11,12	5/27 (金)	6,7	移住者にみる人権の尊重と倫理	諏訪	
13,14	6/3 (金)	6,7	1.医学・看護研究における倫理 2.看護研究における倫理	片岡	
15	6/10 (金)	6	課題2：発表	〃	

連絡先

片岡研究室 TEL/FAX：088-880-2538;e-mail:mkataoka@kochi-u.ac.jp

テキスト

日本看護協会編：平成15年版 看護白書、p.3-93,p217-235, 日本看護協会出版会, 2003.

参考文献

- 1) 坪倉繁美編：具体的なジレンマからみた看護倫理の基本,医学芸術社, 2005.
- 2) 岡崎寿美子・小島恭子編：ケアの質を高める看護倫理 ジレンマを解決するために,医歯薬出版株式会社,2002.
- 3) サラ T.フライ著、片田範子、山本あい子訳：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド、日本看護協会出版会,2002.
- 4) シーア・コルボーン他著、長尾力訳：奪われし未来、翔泳社,2004.
- 5) 清水靖子：森と魚と激戦地、北斗出版,1997.

授業評価

課題と授業参加度

授業科目：ペアレンティング学 (2単位)

学習目標：子どもの生命が尊重され、健やかに育つ社会を育成するために、Parenting Education について理解を深める。人間のライフサイクルの中で生命誕生から小児期、思春期の「将来の親」となる人、成人期、壮年期の「親となる過程」の人が抱える現代諸問題及び看護専門者としての次世代育成や家族支援の方法について追及する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.7	金	6	ペアレンティング学の概念 ペアレンティング・エデュケーションの定義	尾原	母性看護学（5階）の共同研究室
2	10.14	〃	6	現代家族の実態と諸問題	〃	
3	10.21	〃	6	変化する現代の家族 1 社会の変化と子どもの環境 1	植田	
4	10.28	〃	6	変化する現代の家族 2 社会の変化と子どもの環境 2	〃	
5	11.4	〃	6	ライフサイクルと家族の健康 家族看護学の基礎・家族看護学の動向	尾原	
6	11.11	〃	6	家族看護学における理論 1 システム理論の活用	川島	
7	11.18	〃	6	家族看護学における理論 2 家族役割・発達理論の活用	〃	
8	11.25	〃	6	家族看護学における理論 3 家族ストレスと家族対処理論の活用	尾原	
9	12.2	〃	6	家族看護の研究と実践	〃	
10	12.9	〃		母子関係の形成と課題	濱田	
11	12.16	〃	6	女性のライフサイクルと家族の健康	〃	
12	24.1.6	〃	6	母子の心理・社会をめぐる諸問題	北村	
13	1.13	〃	6	親子関係の作り方 1 Parenting Education Training 1	尾原	
14	1.20	〃	6	親子関係の作り方 2 Parenting Education Training 2	〃	
15	1.27	〃	6	事例の分析とまとめ	〃	

授業科目：看護英語（2単位）

到達目標：看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H23.10.7	金	7	Developments in the world	植田	小児看護学（5階）の共同研究室
2	10.14	〃	〃	〃	〃	
3	10.21	〃	〃	〃	〃	
4	10.28	〃	〃	〃	〃	
5	11.4	〃	〃	〃	〃	
6	11.11	〃	〃	〃	〃	
7	11.18	〃	〃	〃	〃	
8	11.25	〃	〃	〃	〃	
9	12.2	〃	〃	〃	〃	
10	12.9	〃	〃	〃	〃	
11	12.16	〃	〃	〃	〃	
12	24.1.6.	〃	〃	〃	〃	
13	1.13	〃	〃	〃	〃	
14	1.20	〃	〃	〃	〃	
15	1.27	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書等

- 1) www.voanews.com/specialenglish/
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

看護教育・管理学分野の特色

看護教育学分野においては、よりよい看護を提供するための看護学教育のあり方について、その本質と方法論を探究し、看護学教育を実践（教育・臨床）の場で活用できる基礎的能力をもつ人材を育成します。

看護管理学分野においては、看護管理の基本となる諸理論、組織行動学について学び、看護管理実践への適用について探究します。さらに、医療安全、医療の質の保証について学び、看護管理上の課題や看護管理者の役割について探究します。また、チーム医療の中でリーダーとしての資質を養う目的から、看護教育学と看護管理学を併せて学習することで、教育と看護実践のリーダーとなる資質、或は管理者としての能力を併せ持つ人材を育成します。

また、看護教育・看護管理の研究を展開するために必要となる情報処理技法を修得します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
看護教育・管理学特論Ⅰ	看護教育学の概念を歴史の変遷をふまえて考察するとともに、看護学教育制度や組織運営について探究します。また、看護の質を高めるための看護継続教育や看護教育方法の取り組みについて、その課題を論議します。	尾原喜美子 坂本 雅代 野村晴香 岡田久子
看護教育・管理学特論Ⅱ	看護管理の基本となる諸理論、組織行動学について教授し、看護管理実践への適用について探究します。さらに看護管理過程、看護の質保証と看護管理、経営管理、および、医療安全管理などについて教授します。	高橋 永子 池内 和代 齋藤 美和
看護教育・管理学演習	看護教育学と看護管理学の両分野にまたがる課題や、看護教育学の現況と課題・方向性、看護機能・看護業務と看護管理などの課題について問題解決型の演習を行います。	高橋 永子 尾原喜美子 坂本 雅代 齋藤 美和
保健医療情報学演習	看護教育・看護管理の研究対象を情報表現する手法を具体的な研究テーマを元に学びます。また、その情報の特性を把握し、その特性に応じた分析が行える能力を修得するために、保健医療情報学の手法を教授します。	栗原 幸男

授業科目：看護教育・管理学特論Ⅰ（2単位）

学習目標：看護教育学とは何か、歴史や社会背景をふまえて考察するとともに、看護学教育制度や看護教育方法について理解する。また、看護の質を向上するための看護継続教育の取り組みについてその課題を検討し明らかにする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.14	木	6	看護教育学の概念	坂本	基礎看護学（3階）・小児看護学（5階）・いずれかの共同研究室
2	〃	〃	7	看護教育学の歴史の変遷	〃	
3	4.21	〃	6	看護学教育制度の成り立ちと特徴1	〃	
4	〃	〃	7	看護学教育制度の成り立ちと特徴2	〃	
5	4.28	〃	6	看護教育課程論1	〃	
6	〃	〃	7	看護教育課程論2	野村	
7	5.12	〃	6	看護教育学組織運営論1	尾原	
8	〃	〃	7	看護教育学組織運営論2	〃	
9	5.19	〃	6	看護学教育授業展開論1	尾原	
10	〃	〃	7	看護学教育授業展開論2	岡田	
11	5.26	〃	6	生涯教育と看護継続教育論1	坂本	
12	〃	〃	7	生涯教育と看護継続教育論2	〃	
13	6.2	〃	6	看護教育方法論（プレゼンテーション）	坂本・野村 岡田	
14	〃	〃	7	看護教育方法論（プレゼンテーション）	〃	
15	6.9	〃	6	まとめ	〃	

授業科目：看護教育・管理学特論Ⅱ（2単位）

到達目標：

1. 看護管理の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について理解する。
2. 看護管理をめぐる課題について探求し、それらの課題を解決するための方策を立案する。
3. 看護ケアに携わる人材の育成について、キャリアの概念を学び、組織における人材の育成と活用について実践事例を通して理解する。
4. リスクマネジメント、コンフリクトマネジメントについて学び、医療安全、医療の質の保証について理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.13	水	6	ガイダンス	高橋（永）	成人看護学共同研究室（7階）
2		〃	7	看護管理の機能と役割	〃	
3	4.20	〃	6	看護組織の成り立ち、変革への対応	〃	
4		〃	7	キャリア開発(人材育成)	池内	
5	4.27	〃	6	看護管理システム論（1）	齋藤	
6		〃	7	看護管理システム論（2）	〃	
7	5.11	〃	6	組織運営と人材育成の実際	宮井	
8		〃	7	組織運営と人材育成の実際	〃	
9	5.18	〃	6	コンフリクトマネジメント(1)	森山	
10		〃	7	コンフリクトマネジメント(2)	〃	
11	5.25	〃	6	リスクマネジメント	高橋	
12		〃	7	タイムマネジメント	〃	
13	6.01	〃	6	看護管理をめぐる課題	〃	
14・15	6.13	月	3・4	医療過誤訴訟の現状と今後の見通し	金平	

参考書：

1. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2006.
2. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
3. 中西睦子：看護サービス管理 第2版、医学書院、2002.
4. P・ハーシー 山本成二訳：行動科学の展開—人的資源の活用—、生産性出版、2006.
5. Edgar H. Schein 二村敏子訳：キャリア・ダイナミクス、白桃書房、2000.
6. 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2007.

授業科目：看護教育・管理学演習（2単位）

到達目標：

1. 看護教育・管理学分野における課題について、文献レビュー・議論を通して今日的課題を明確にする。
2. 問題解決型の演習により、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	23.10.05	水	6・7	看護管理学の現状分析と課題の探求	高橋（永）	(3階) (4階) (7階) いずれかの共同研究室
3・4	10.12	〃	〃	看護教育学の現状分析と課題の探求	坂本	
5・6	10.19	〃	〃	生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求	坂本	
7・8	10.26	〃	〃	看護組織運営の現状分析と課題の探求	高橋（永）	
9・10	11.02	〃	〃	看護の質保証と評価に関する現状分析と課題の探求	齋藤	
11・12	11.09	〃	〃	研究計画書の作成（1）	尾原 高橋（永） 坂本	
13・14	11.16	〃	〃	研究計画書の作成（2）		
15・16	11.30	〃	〃	研究計画書の作成（3）		

*授業の進め方

授業内容、スケジュールについては、学生の希望を考慮し、変更する場合があります。

参考図書

1. 舟島なおみ：看護教育学研究—発見・創造・証明の過程、医学書院、2002.
2. 杉森みど里他：看護教育学、医学書院、2005
3. Kathleen R 他 杉森みど里監訳、エビデンスに基づく看護教育学、医学書院、2003
4. 佐藤みつ子他：看護教育における教育カリキュラムと「看護学体系」、日本看護協会出版会、1998.
4. 藤岡完治他：学生とともに創る臨床実習指導ワークブック、医学書院、1996.
5. 松木光子監：看護学臨地実習ハンドブック、金芳堂、1996.
6. Rheba de Tornyay, Martha A. Thompson 中西睦子他訳：看護学教育のストラテジー、医学書院、1993.
7. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
8. Paul Hersey 山本成二：行動科学の展開—人的資源の活用—生産性出版、2006.
9. 松下博宣：続看護経営学、日本看護協会出版会、2006.
10. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2006.

授業科目：保健医療情報学演習（2単位）

到達目標：保健医療情報の特性を理解する。

看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現法を修得する。

保健医療情報を分析する手法を修得する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.6	木	6	情報学視点からの保健医療研究論	栗原	看護学科棟 保健指導室（2階）
2・3	未定*		6・7	保健医療情報の特性	〃	
4・5	〃	〃	〃	看護教育・看護管理の研究における対象の情報（データ）表現	〃	
6・7	〃	〃	〃	看護教育・看護管理における研究対象の情報（データ）表現演習	〃	
8・9	〃	〃	〃	保健医療情報の分析手法	〃	
10・11	〃	〃	〃	保健医療情報の分析方法の検討演習	〃	
12・13	〃	〃	〃	保健医療情報学の研究事例の検討	〃	
14・15	〃	〃	〃	総括	〃	

*：2回目以降の授業日は履修学生と相談する。

参考図書：

1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah, Susan K. Newbold and Judith V. Douglas. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会 10周年記念出版編纂委員会. 医療情報学1～3巻. (有) ネットワーク.
3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

成人・老人看護学分野の特色

成人・老人看護学分野では、在宅患者や地域で生活する成人・老人に対して、QOLの向上を目指す看護を念頭において、その生活の場における成人・老人の生活状況や社会資源、看護支援の現況などを把握・分析して、在宅でのクライアントのための在宅・訪問看護や家族への支援、健康を増進させるための幅広い年齢層への看護ケアのあり方などを検討します。また、病院や老人施設などの施設で生活する成人・老人療養患者、或はその家族などへのQOLの向上を目指す看護についても修得します。さらに、成人期における看護として重大な意味を持つ周手術期及び慢性期における患者や家族に対する看護を修得させます。更に、健康障害を持つ老人やその家族を対象とし、人々の尊厳とQOLを高めるための看護等をテーマに取り上げ問題解決型の学習を重視します。そして、成人期のライフステージにある人々とその家族の心の看護について教授します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
成人・老人看護学 特論Ⅰ	在宅患者や地域で生活する成人・老人などに対してQOLの向上を目指した看護を行うため、生活状況や社会資源、看護支援の現況などを把握・分析して、在宅等のクライアントのための在宅・訪問看護支援を推進するための看護介入策などについて教授します。そして、成人期のライフステージにある人々とその家族の心の看護について教授します。	吾妻 健 溝渕俊二 高橋永子 戸田由美子 山脇京子 青木早苗 高橋美美、
成人・老人看護学 特論Ⅱ	地域あるいは施設で治療、療養する成人・高齢者及びその家族のQOL向上を主とする看護について教授します。成人期における慢性疾患患者や高齢者における認知症などの障害をもつ患者及びその家族の看護に必要な知識について学習します。さらにこれらの患者の尊厳とQOLを高めるための方法について議論します。	高尾俊弘 片岡万里 藤田晶子 齋藤美和 杉本加代 小笠原木綿、
成人・老人看護学 演習	成人・老人看護学特論Ⅰ、Ⅱで修得した知識を、実践の場で演習し、文献検討を行います。在宅患者や地域、或は施設で生活する成人・老人に対する看護について演習するとともに、成人・老人の健康障害者に対するQOLを重視した看護について、それぞれ課題を取り上げて演習します。	吾妻 健 高尾俊弘 高橋永子 片岡万里 溝渕俊二 戸田由美子 藤田晶子 齋藤美和 山脇京子 青木早苗 杉本加代 小笠原木綿

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅰ（2単位）

- 到達目標：1) M・キングの Transaction Theory に基づき人間と環境を捉え、ヘルスプロモーションについて学ぶ。
 2) 環境（生活習慣）及び遺伝と健康について理解する。
 3) 成人期における健康障害の現状について学習し、疾病の自己管理や QOL としての健康について学ぶ。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6.10	金	6	環境保健の動向	田口	成人看護学講座成人看護学共同研究室（7階）
2	6.10	〃	7	高齢者を看護ケアする新人看護師のリアリティショック	川崎	
3	6.17	〃	6	進化医学	吾妻	
4	6.17	〃	7	栄養サポートチーム(NST)の役割	溝渕	
5	6.24	〃	6	静脈・経腸栄養療法について	溝渕	
6	6.24	〃	7	栄養療法実践のための症例検討	溝渕	
7	7.1	〃	6	慢性疾患と共に生活する人への看護（1）	高橋(永)	
8	7.1	〃	7	慢性疾患と共に生活する人への看護（2）	高橋(永)	
9	7.8	〃	6	精神面からとらえた健康（1）	戸田	
10	7.8	〃	7	精神面からとらえた健康（2）	戸田	
11	7.15	〃	6	がん看護（1）	山脇	
12	7.15	〃	7	がん看護（2）	山脇	
13	7.22	〃	6	ターミナルケア（1）	青木	
14	7.22	〃	7	ターミナルケア（2）	青木	
15	7.29	〃	6	生活習慣と健康	高橋(美)	

参考書：分子予防環境医学 分子予防環境医学研究会 編 本の泉社
 ストレスの心理学、リチャード・S・ラザルス他著 実務教育出版、1991年初版
 ジュリア・B・ジョージ、訳南裕子他、看護理論集、増補改訂版 ーより高度な看護実践のためにー 日本看護協会出版会、1998
 大西和子他編、成人看護概論、ヌーベルヒロカワ、2009年
 系統看護学講座、成人看護学総論、医学書院、2009年

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：地域で治療あるいは療養する成人・高齢者を対象にして、その家族への援助を含めて QOL を維持、向上するための支援について、施策とケアの側面から教授し、健康を障害した成人高齢者が社会で共生できるためのシステムの構築について議論します。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.6.15	水	6	高齢者とその家族の QOL について（1）	片岡	地域看護学共同研究室（4階） 又は老年看護学共同研究室（6階）
2	〃	〃	7	高齢者とその家族の QOL について（2）	〃	
3	6.22	〃	6	高齢者とその家族の QOL について（3）	〃	
4	〃	〃	7	在宅療養と居住環境（1）	藤田	
5	6.29	〃	6	在宅療養と居住環境（2）	〃	
6	〃	〃	7	在宅療養と居住環境（3）	〃	
7	7.6	〃	6	生活習慣と健康(1)	高尾	
8	〃	〃	7	生活習慣と健康(2)	〃	
9	7.13	〃	6	生活習慣と健康(3)	〃	
10	〃	〃	7	成人と健康(1)	齋藤	
11	7.20	〃	6	成人と健康(2)	〃	
12	〃	〃	7	成人と健康(3)	〃	
13	7.27	〃	6	高齢者の現状と課題	杉本	
14	〃	〃	7	在宅療養を支える看護	小笠原	
15	8.3	〃	6	まとめとレポート	高尾	

授業科目：成人・老人看護学演習（１）（４単位）

到達目標：本科目では、人間・健康・環境・看護に関するグローバルな検討及び思索を行い、専門看護職者としての看護支援に関する職能の向上に寄与する。演習では看護支援のあり方について文献講読及び事例検討を行い、看護実践場面における問題解決能力・マネジメント能力を拡充させる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	10.5	水	6・7	文献講読・事例検討（１）	吾妻	看護学科棟7階・成人看護学共同研究室
3・4	10.19	〃	6・7	文献講読・事例検討（２）	高橋(永)	
5・6	11.2	〃	6・7	文献講読・事例検討（３）	溝渕	
7・8	11.16	〃	6・7	文献講読・事例検討（４）	戸田	
9・10	12.7	〃	6・7	文献講読・事例検討（５）	山脇	
11・12	12.21	〃	6・7	文献講読・事例検討（６）	山脇	
13・14	1.11	〃	6・7	文献講読・事例検討（７）	青木	
15・16	1.18	〃	6・7	文献講読・事例検討（８）	青木	

母子看護学分野の特色

母子看護学分野は、母子看護学課程と実践助産学課程の二つの課程を置きます。

母子看護学課程では、母子の健康と QOL, 母性性の発達, 育児過程に関する QOL と看護, あるいは施設などにおける子どもの療養生活と QOL, 不安の解決やセルフケアを促すための看護などについて, QOL 重視の母子健康課題の発見と展開という問題解決型の学習を重視します。未来の子どもや大人の健康と生活を擁護し, 子どもが健康に成長発達でき安心して暮らすことのできる社会を迎えるための課題を探求します。また, 母子の生活や健康問題を把握するために必要な理解と知識を学習します。さらに, 母子を取り巻く社会や政策, 母子の健康問題に影響する諸因子について理解し, 次世代の健全育成のために必要な看護の役割の開発ができる能力を修得します。

実践助産学課程では, 生活習慣や医療・社会環境の変化等に伴う女性と子ども及び家族をエンパワーメントできる高度専門職業人としての役割の所得, 新たな状況や環境に柔軟に対応でき優れた「助産実践能力」と「管理能力」を有し, コミュニティや他の専門職と協働して健康増進に向けた「創造力」を発揮できる高度専門職業人(助産師)としての能力を修得します。助産学と母子看護学とを一体的に据え, 知識・技術と体験の統合を図り, 学生自ら目指すべき人材像を導きだし, 主体的に行動・活躍し得る能力を養います。その中で, 助産学未学習者は, 助産師国家試験受験に必要な科目履修を行い助産学分野の知識・技術を柔軟且つ効果的に履修します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
母子看護学特論 I	生活における女性の QOL 向上のための看護という視野に立って母性性の発達や育児のための看護支援などを扱います。女性の思春期から妊娠・産褥期, 育児期, 更年期に至るまでの生涯にわたる心理的・成長・発達, 社会的側面及び生理的反応を理解・分析する基礎的研究, 母性性の発達や妊娠の生活, 育児態度と生活要因などについて教授します。	尾原喜美子 川島美保 濱田佳代子 北村亜希子
母子看護学特論 II	小児, 親, 家族, また小児を取り巻く環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法について学習します。小児の各期における成長発達の特性や重要他者との関係, 家族発達など小児看護における重要な課題について追求します。	尾原喜美子 植田味佐
母子看護学演習	母子看護に関する特論 I・II に示したテーマの研究や重要課題について, 文献レビューとクリティーク, フィールドワークをさせ, 自ら問題を展開する思考を養い, 批判力及び研究を実践するための基本的能力を修得します。	尾原喜美子 植田味佐 川島美保 濱田佳代子

実践助産学課程科目		
(自)助産学特論	助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すための Evidence-Based-Midwifery (以下 EBM とする) の方法論、および援助の開発やその効果の検証方法について理解する。	尾原喜美子 池内和代 濱田佳代子 小松輝子
ウイメンズヘルス論	1. リプロダクションに関する解剖・生理について理解する。 2. 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患について学ぶ。 3. 女性とその家族の健康支援に関する特性・現象を理解する。 4. セクシャルヘルスとリスクの回避行動の原理と技法を学び、援助のあり方を理解する。	溝渕俊二 池内和代 濱田佳代子 小松輝子
(自) 助産診断・技術学基礎	1. 妊娠・分娩・産褥、新生児、乳児の生理的経過を理解し助産過程を展開できる能力を養う。 2. 周産期の継続ケアと保健指導の展開方法を学ぶ。	尾原喜美子 小松輝子 濱田佳代子 川島美保
助産診断・技術学特論 I	1. 周産期の母子の健康と発達の診断及び異常との識別を行うために必要な解剖・生理学、病態生理学を学ぶ。 2. 周産期の母子の健康に関わる遺伝と免疫について学ぶ。 3. 周産期の母子の健康に関わる臨床検査 (超音波等) ・薬理について学ぶ。 4. 周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。	吾妻 健 溝渕俊二 池内和代 杉本加代
助産診断・技術学特論 II	1. 助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。 2. 多様な分娩介助技術の原理と方法を理解する。 3. 母乳哺育についての原理と方法を理解する。	池内和代 小松輝子 濱田佳代子
助産診断・技術学演習	1. 周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。 3. EBM の方法論に基きケアを展開できる能力を養う。 4. 分娩経過に応じて母子の安全・安楽なケアを提供できる能力を養う。 5. 母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。 6. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。(新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断) 7. 地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。	尾原喜美子 池内和代 小松輝子 濱田佳代子
周産期ハイリスク論	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常についてを学ぶ。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応及びハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。(新生児蘇生、会陰縫合術、	尾原喜美子 小松輝子

周産期ハイリスク論	超音波診断、XP 判読等) 4. 周産期における助産師の役割が熟考でき、修了後の【周産期医療人材育成プログラム】への参加意欲を高める。	
周産期医療システム論	1. 地域母子保健の仕組みを理解する。 2. 周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得し、周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築に参画するための基本的能力を養う。 3. 周産期医療を中心とした母子保健に関する助産師の役割について学ぶ。 4. シームレス医療を追及し助産師の役割を明確にし助産道場につなげる。	栗原幸男 池内和代 杉本加代
母子精神病理学	1. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得し、女性に対する支援に必要な能力を養う。 2. 親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを行うための能力を養う。 3. 育児期の健康に関わる情報と診断を学び、育児期の母子のケアを展開できる能力を養う。	戸田由美子 小松輝子
コンサルテーション論	1. 女性および母子と家族の健康問題の解決や健康課題の達成に向けた相談・教育を行うために必要なカウンセリングおよびコーチングの方法論を追及する。	尾原喜美子 池内和代 小松輝子 川島美保
地域母子保健診断学	1. 地域社会で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識・技術を習得する。 2. 他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。 3. 体外環境要因として汚染物質についてその作用と母子の健康に及ぼす影響について学ぶ。 4. 国際化時代の地域母子保健を学ぶ。	尾原喜美子 高尾俊弘 齋藤美和
助産管理学	1. 助産業務管理、リーダーシップ、マネージメント、コーディネーション等の原理と方法について学び、evidence に基づく女性の意思を尊重した支援の在り方を追及する。 2. 管理実習（対象：医療機関、助産所より選択） 助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。 3. プロポーザルの知識を深め、組織改革、政策提案できる能力を養う。 4. 周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割を追及する。	尾原喜美子 高橋永子 池内和代

授業科目：母子看護学特論Ⅰ（2単位）

学習目標：あらゆる世代の女性及び子どもと家族の健康増進のための課題を探求し明確にする。時代の変化及び日本の歴史的背景・文化、諸理論の理解を基に母性と子どもの課題の具体的な支援のあり方を追求する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当 教員	場所
1	23.4.12	火	7	オリエンテーション 子どもと家族を取り巻く環境	尾原	母性看護学共同研究室 (5階)
2	4.19	〃	7	子どもと家族を理解するための理論 1 (発達理論1)	〃	
3	4.26	〃	7	子どもと家族を理解するための理論 2 (発達理論2)	〃	
4	5.10	〃	7	子どもと家族を理解するための理論 3 (セルフケア、コーピングの理論など)	川島	
5	5.17	〃	7	子どもと家族を援助するための理論 4 (ソーシャルサポート理論、家族の理論)	〃	
6	5.24	〃	7	子どもと家族を守る理論に関する課題	尾原	
7	5.31	〃	7	母と子の絆	宮井	
8	6.7	〃	7	小児専門看護師の役割	武市	
9	6.14	〃	7	慢性疾患をもつ子どもと家族の看護	〃	
10	6.21	〃	7	妊娠・出産、育児の歴史的な歩み	濱田	
11	6.28	〃	7	今日の周産期医療の実態	〃	
12	7.5	〃	7	母性看護学における主要な概念	〃	
13	7.12	〃	7	生殖医療の発達に伴う倫理的課題	〃	
14	7.19	〃	7	わが国の母性看護学領域における研究の動向	〃	
15	7.26	〃	7	女性のライフサイクルにおける健康問題	北村	

授業科目：母子看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標:母子の生活における QOL の向上を目指した看護の基礎的検討を行う。
母子の自律や自己決定や療養における諸症状や反応について検討し、セルフケアにおける課題の抽出や倫理等について理解を深める。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.12	火	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田	臨床看護学講座・小児看護学共同研究室（5階）
2	4.19	〃	〃	〃	〃	
3	4.26	〃	〃	〃	〃	
4	5.10	〃	〃	〃	〃	
5	5.17	〃	〃	〃	〃	
6	5.24	〃	〃	〃	〃	
7	5.31	〃	〃	〃	〃	
8	6.7	〃	〃	〃	〃	
9	6.14	〃	〃	〃	〃	
10	6.21	〃	〃	母子看護に関する研究成果の適用	尾原	
11	6.28	〃	〃	〃		
12	7.5	〃	〃	母親役割理論の母子看護への適応		
13	7.12	〃	〃	家族システム理論と母子看護		
14	7.19	〃	〃	家族看護理論と小児看護		
15	7.26	〃	〃	母子保健医療と福祉制度について		

授業科目：母子看護学演習（1）

学習目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、自己の研究課題を明確にしながら研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.4	火	6	Current topics in pediatric nursing care & study	植田	母子看護学共同研究室（5階）
2	10.11	〃	〃	〃	〃	
3	10.18	〃	〃	〃	〃	
4	10.25	〃	〃	〃	〃	
5	11. 1	〃	〃	〃	〃	
6	11. 8	〃	〃	〃	〃	
7	11.15	〃	〃	〃	〃	
8	11.22	〃	〃	〃	〃	
9	11.29	〃	〃	〃	〃	
10	12. 6	〃	〃	現代医療をめぐる倫理的問題の検討	尾原	
11	12.13	〃	〃	女性と子ども・家族の支援と倫理的問題	〃	
12	12.20	〃	〃	母子の健康問題の分析	〃	
13	24. 1.10	〃	〃	助産領域における倫理問題	〃	
14	1. 17	〃	〃	生涯を通じての女性の健康問題	〃	
15	1.24	〃	〃	子どもと家族に関する医療・福祉・教育の現状	〃	

授業科目：母子看護学演習（2）

学習目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティックや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、自己の研究課題を明確にしながら研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.4	火	7	オリエンテーション 母子及び家族に関する研究の概要	尾原	母性看護学共同研究室（5階）
2	10.11	〃	〃	母子看護学領域における研究の動向 母子保健の実態と課題	濱田	
3	10.18	〃	〃	我が国の子どもと家族の研究の動向、小児保健の実態と看護	川島	
4	10.25	〃	〃	母子保健における課題の明確化 （プレゼンテーション）	尾原	
5	11. 1	〃	〃	子どもと家族に関する課題の明確化 （プレゼンテーション）	尾原	
6	11. 8	〃	〃	母子看護領域の研究と倫理	濱田	
7	11.15	〃	〃	看護研究方法の検討1（質的研究）	川島	
8	11.22	〃	〃	看護研究方法の検討2（量的研究）	濱田	
9	11.29	〃	〃	小児看護研究のクリティック	川島	
10	12. 6	〃	〃	母性看護研究のクリティック	濱田	
11	12.13	〃	〃	研究計画書の作成1	尾原	
12	12.20	〃	〃	研究計画書の作成2	〃	
13	24. 1.10	〃	〃	研究計画書の作成3	〃	
14	1.17	〃	〃	研究計画書のプレゼンテーション 4	〃	
15	1.24	〃	〃	研究計画書の修正・まとめ	〃	

授業の進め方：ゼミナール形式

（学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し学習を深める。授業内容スケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。）

授業科目：助産学特論（1単位15時間）導入科目

学習目標：1.助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すための Evidence-Based-Midwifery（以下 EBM とする）の方法論、および援助の開発やその効果の検証方法について理解する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.12	火	2	助産の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ	尾原	大学院ゼミ室1（6階）
2	23.4.18	月	2	助産診断・技術学の概要	小松	
3	23.4.25	月	2	助産師の職制と業務	池内	
4	23.5.9	月	2	助産と倫理	尾原	
5	23.5.16	月	2	助産の歴史 助産師教育の変遷	池内	
6	23.5.23	月	2	Woman-centered care Evidence Based Midwifery	小松	
7	23.5.30	月	2	助産学の理論と研究	濱田	
8				評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 1・5・6 医学書院 助産師基礎教育テキスト 1 日本看護協会 出版会	助産学研究入門 WHO 勧告に見る望ましい周産期ケアとその 根拠 WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド 助産師の意思決定 EBM 楽しい演習帳 実践マタニティ診断 バース・リボーン—よみがえる出産—

授業科目：ウイメンズヘルス論（1単位15時間）

学習目標：1.リプロダクションに関する解剖・生理について理解する。

2.女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患について学ぶ。

3.女性とその家族の健康支援に関する特性・現象を理解する。

4.セクシャルヘルスとリスクの回避行動の原理と技法を学び、援助のあり方を理解する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.14	木	4	リプロダクションに関する解剖・生理	溝渕	大学院ゼミ室1（6階）・母性看護学実習室（5階）
2	23.4.21	木	4	人間の性行動と性の多様性 （セクシュアリティ・ジェンダー）	小松	
3	23.4.28	木	4	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患	溝渕	
4	23.5.12	木	4	女性のライフサイクルにおける健康問題とケア	池内	
5	23.5.19	木	4	母体保護法及び薬事法 人工妊娠中絶の現状と女性への影響	濱田	
6	23.6.2	木	4	セクシャルヘルスケア（受胎調節法）	濱田	
7	23.6.9	木	4	セクシャルヘルスケア（受胎調節指導）	濱田	
8				試験	濱田	

受胎調節実地指導員講習に読替え

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 2・3・4・5 医学書院 助産師基礎教育テキスト 2・6 日本看護協会出版会 木村好秀ほか：家族計画指導の実際 医学書院	新・受胎調節指導用テキスト 生涯人間発達学 女性の生涯発達とアイデンティティ 助産師業務要覧

授業科目：助産診断・技術学基礎（1単位15時間） 導入科目

学習目標：1.妊娠・分娩・産褥、新生児、乳児の生理的経過を理解し助産過程を展開できる能力を養う。

2.周産期の継続ケアと保健指導の展開方法を学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.12	火	3	助産診断過程	小松	大学院ゼミ室1（6階）
2	23.4.13	水	1	妊娠の成立と生理	乾	
3	23.4.25	月	3	分娩の生理Ⅰ	小松	
4	23.5.9	月	3	分娩の生理Ⅱ	小松	
5	23.5.16	月	3	新生児の生理	濱田	
6	23.5.23	月	3	産褥の生理	尾原	
7	23.5.30	月	3	乳幼児の成長発達	川島	
8				評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 2・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 4・5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂 実践マタニティ診断第2版 日本看護診断・実践研究会 医学書院	プリンシプル産科婦人科学 第2版 病気が見える Vol10 産科 第2版

授業科目：助産診断・技術学特論 I（1 単位 15 時間）

学習目標：1.周産期の母子の健康と発達の診断及び異常との識別を行うために必要な解剖・生理学、病態生理学を学ぶ。

2.周産期の母子の健康に関わる遺伝と免疫について学ぶ。

3.周産期の母子の健康に関わる臨床検査（超音波等）・薬理について学ぶ。

4.周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.13	水	2	母子の健康と感染	溝渕	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
2	23.4.20	水	2	母子の健康と免疫	吾妻	
3	23.4.27	水	1	母子の栄養と運動（歯科保健）	杉本	
4	23.4.27	水	2	周産期に関する検査	溝渕	
5	23.5.11	水	2	遺伝と遺伝性疾患	吾妻	
6	23.5.18	水	1	周産期に関する検査（超音波・CTG）	乾	
7	23.6.1	水	2	周産期に関する薬剤	宮村	
8				評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 2・3・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 4 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版

授業科目：助産診断・技術学特論Ⅱ（1単位15時間）

学習目標：1.助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。

2.多様な分娩介助技術の原理と方法を理解する。

3.母乳哺育についての原理と方法を理解する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.19	火	2	妊娠期の助産診断	池内	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
2	23.4.26	火	2	妊婦のケア	池内	
3	23.5.10	火	2	分娩期の助産診断	小松	
4	23.5.17	火	2	分娩介助法（フリースタイル分娩）	小松	
5	23.5.24	火	2	産褥期・新生児期の助産診断	濱田	
6	23.5.31	火	2	乳房管理（母乳育児の原理と方法） BFH	池内 小松	
7	23.6.7	火	2	母子と補完代替医療（東洋医学・アロマ等）	非常勤	
8				評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 3・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 4・5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂 実践マタニティ診断第2版 日本看護診断・実践研究会 医学書院 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院	プリンシプル産科婦人科学 第2版 母乳育児支援ガイド 母乳育児支援スタンダード 新生児蘇生法テキスト 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学 医学書院

授業科目：助産診断・技術学演習（3単位 90時間）

学習目標：1.周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。

2.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。

3.EBMの方法論に基づきケアを展開できる能力を養う。

4.分娩経過に応じて母子の安全・安楽なケアを提供できる能力を養う。

5.母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。

6.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。
(新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断)

7.地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。

評価方法：演習評価・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	23.4.26	火	3・4	妊婦診察・骨盤計測技法	池内 小松	大学院ゼミ室1（6階）・母性看護学実習室（5階）
3・4	23.5.10	火	3・4	産婦のケア（産痛緩和・アロマ等）（2回）	池内 小松	
5・6	23.5.17	火	3・4	妊婦診察・骨盤計測チェック	池内 小松	
7	23.5.18	水	2	超音波診断技法	乾 池内 小松	
8	23.5.24	火	3	新生児診察・沐浴	濱田 池内 小松	
9	23.5.24	火	4	胎児心拍数モニタリング（CTG）の判読	乾 池内 小松	
10・11	23.5.25	水	2・4	会陰切開・裂傷縫合（2回/内医師1回）	乾 池内 小松	
12～22	23.5.26 23.5.27	木 金		過疎地域体験演習	池内 小松	
23	23.6.7	火	3	新生児診察・沐浴チェック	濱田 池内 小松	
24・25	23.6.7	火	3・4	受胎調節実地指導演習	濱田	

	～ 23.6.27			受胎調節実地指導演習チェック	池内 小松
26～29	23.7.27 23.7.29	水 金		助産所見学	池内 小松
30・31	未定			新生児蘇生法(NCPR) (医師) (2回)	池上
32～45	10月以 降	月 金		分娩介助演習 (10回) フリースタイル分娩 (2回) 分娩介助演習チェック (2回)	尾原 池内 小松 濱田

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・4・5・6 日本看護協会出版会 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト メディカルビュー社 荒木 勤：最新産科学 (正常編) 文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学. 医学書院 2008 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 メディカ出版

授業科目：周産期ハイリスク論（1単位15時間）

学習目標：1.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について学ぶ。

2.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応及びハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。

3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。（新生児蘇生、会陰縫合術、超音波診断、XP判読等）

4.周産期における助産師の役割が熟考でき、卒業後の【周産期医療人材育成プログラム】への参加意欲を高める。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.21	木	1	生殖補助医療の現状	医学部	大学院ゼミ室1（6階）・母性看護学実習室（5階）
2	23.5.19	木	1	産褥期の異常とケア（乳房トラブル）	尾原	
3	23.5.25	水	1	産科手術及び産科医療処置 （会陰裂傷縫合、吸引・鉗子分娩、帝王切開など）	乾	
4	23.6.2	木	1	NICU とハイリスク新生児のケア	森本	
5	23.6.30	木	1	妊娠期の異常	医学部	
6	23.7.14	木	1	分娩期の異常	医学部	
7	23.10.13	木	1	新生児の異常	医学部	
8				評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座2・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（異常編）文光堂	標準産科婦人科学（第3版）医学書院 標準小児科学（第7版）医学書院 プリンシプル産科婦人科学 第2版 メディカルビュー社

授業科目：母子精神病理学（1単位 15時間）

- 学習目標：1.女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得し、女性に対する支援に必要な能力を養う。
 2.親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを行うための能力を養う。
 3.育児期の健康に関わる情報と診断を学び、育児期の母子のケアを展開できる能力を養う。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.4.13	水	3	女性のライフサイクルとメンタルヘルスⅠ	戸田	大学院ゼミ室1 (6階)
2	23.4.20	水	3	女性のライフサイクルとメンタルヘルスⅡ	戸田	
3	23.4.27	水	3	女性のライフサイクルとメンタルヘルスⅢ	山崎	
4	23.5.11	水	3	母子を取り巻く環境	澤田	
5	23.5.18	水	3	親子関係をめぐる問題（母子・父子関係）	澤田	
6	23.5.25	水	3	親子関係をめぐる問題（児童虐待）	澤田	
7	23.6.1	水	3	ペリネイタルロスとグリーフケア	小松	
8				評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座4・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会出版会 新道 幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院	親と子のきずな 親と子のきずなはどうつくられるか 母子関係の理論 母と子のアタッチメントー心の安全基地ー 母子と家族への援助 母子臨床と世代間伝達 赤ちゃんの死を前にして

授業科目：周産期医療システム論（1単位15時間）

学習目標：1.地域母子保健の仕組みを理解する。

2.周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得し、周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築に参画するための基本的能力を養う。

3.周産期医療を中心とした母子保健に関する助産師の役割について学ぶ。

4.シームレス医療を追及し助産師の役割を明確にし助産道場につなげる。

評価方法：プレゼンテーション・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.11	火	4	周産期医療の現状（世界・日本）	非常勤	大学院ゼミ室1（6階）・医学部講義棟
2	23.10.18	火	4	周産期医療システム	栗原	
3	23.10.25	火	4	周産期医療システムにおける助産師活動（院内助産・助産師外来）	非常勤	
4	23.11.1	火	4	周産期医療システムの実際（世界・日本・高知県）	栗原	
5	23.11.14	月	4	小児・新生児医療の現状	和久	
6	23.11.21	月	4	地域医療計画と医療連携	阿波谷	
7	23.11.22	火	4	産科医不在地域における助産師活動（GW） 周産期医療システムにおける他職種との協働 健康支援者として包括的に求められる助産師の役割	池内 杉本 非常勤	
8	23.11.29	火	4	プレゼンテーション	池内 杉本 非常勤	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座10 医学書院 助産師基礎教育テキスト3 日本看護協会 出版会助産師業務用覧 日本看護協会出版会	助産外来・院内助産所 計画・開設・運営マニュアル 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－

授業科目：コンサルテーション論（1単位15時間）

学習目標：1.女性および母子と家族の健康問題の解決や健康課題の達成に向けた相談・教育を行うために必要なカウンセリングおよびコーチングの方法論を追求する。

評価方法：プレゼンテーション・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.13	木	3	コンサルテーションの理論と方法	非常勤	大学院ゼミ室1（6階）および 母性看護学共同研究室（5階）
2	23.10.20	木	3	相談・教育活動の技術	尾原	
3	23.10.27	木	3	健康教育の実際（企画・運営・評価）	小松	
4	23.11.10	木	3	健康教育の実際（教育方法）	小松	
5	23.11.17	木	3	相談・教育活動の実際（出産前準備教育）	池内	
6	23.11.24	木	3	相談・教育活動の実際（子育て支援）	川島	
7	23.12.1	木	3	健康教育の立案（GW）	池内 小松	
8	23.12.8	木	3	プレゼンテーション	池内 小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座5 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会 出版会	アサーション・トレーニング さわやかな自己表現のために 産む力の咲かせ方 出産準備クラスにおけるエンパワーメント

授業科目：地域母子保健診断学（1単位15時間）

- 学習目標：1.地域社会で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識・技術を習得する。
 2.他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。
 3.体外環境要因として汚染物質についてその作用と母子の健康に及ぼす影響について学ぶ。
 4.国際化時代の地域母子保健を学ぶ。

評価方法：プレゼンテーション・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.10.13	木	4	母子保健のしくみと意義 母子保健活動の現状と動向	尾原	大学院ゼミ室1 (6階)
2	23.10.17	月	2	母子保健行政と関係法規	高尾	
3	23.10.27	木	4	母子保健制度と母子保健施策（日本・高知県）	非常勤	
4	23.11.10	木	4	母子保健活動の展開	斎藤	
5	23.11.14	月	2	国際化時代の地域母子保健	高尾	
6	23.11.24	木	4	母子と生活環境（環境汚染・電磁波・放射線等）	非常勤	
7	23.12.1	木	4	地域母子保健活動における助産師の役割 (GW)	非常勤	
8	23.12.8	木	4	プレゼンテーション	尾原 非常勤	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座1・3・9 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2010 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成23年 母子保健研究会	助産師業務用覧 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－

授業科目：助産管理学（1単位15時間）

学習目標：1.助産業務管理、リーダーシップ、マネージメント、コーディネーション等の原理と方法について学び、evidence に基づく女性の意思を尊重した支援の在り方を追及する。

2.管理実習（対象：医療機関、助産所より選択）

助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。

3.プロポーザルの知識を深め、組織改革、政策提案できる能力を養う。

4.周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割を追求する。

評価方法：プレゼンテーション・ディスカッション参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	23.7.27	水	3	助産所における助産業務管理	眞鍋	大学院ゼミ室1（6階）
2	23.10.11	火	3	管理の基本概念	宮井	
3	23.10.18	火	3	病産院における助産業務管理	公文	
4	23.10.25	火	3	災害時の助産管理	池内	
5	23.11.1	火	3	助産師の義務と責任（関係法規）	非常勤	
6	23.11.8	火	3	周産期の医療事故とリスクマネージメント	高橋(永)	
7	23.11.15	火	3	助産師のキャリア開発（継続教育）	尾原	
8	23.11.22	火	3	プレゼンテーション	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座10 医学書院 助産師基礎教育テキスト3 日本看護協会出版会 助産師業務要覧 日本看護協会出版会	臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－